

政策会議の議事要旨

1 開催日時 令和3年(2021年)12月20日(月)10:30~12:07

2 出席者 知事、副知事、公営企業管理者、教育長、危機管理部長、企画振興部長、総務部長、県民文化部長、健康福祉部長、環境部長、産業政策監兼産業労働部長、観光部長、農政部長、林務部長、建設部長、会計管理者兼会計局長、佐久地域振興局長、上田地域振興局長、諏訪地域振興局長、上伊那地域振興局長、南信州地域振興局長、松本地域振興局長、北アルプス地域振興局長、長野地域振興局長、北信地域振興局長

3 議事等

議題	神野直彦先生による講演
担当部局	企画振興部
概要	講演名:「長野ヴィジョンを構想するために ―well-being (快適・幸福)を求めて―」 ・次期総合5か年計画の策定に向けて、コロナ後の社会のあり方や今後の政策の方向性などについてお話を伺い、意見交換を行う。
主な意見 等	【背景】 ・近年、GDP等の経済統計では測れない社会の豊かさや生活の質を一層重視することが、世界的な潮流となっている。具体的には「幸福」や「well being」を測定する試みや市民生活の向上を図る取組が進められている。国及び自治体においてもこうした動きが広がっている。 【講演内容】 ・SDGsにもある「発展」は重要なキーワード。発展する(develop)というのは閉じる(envelop)の反対であり、開くということ。内在しているものを開くということが発展であって、外部からの圧力で変形することは発展ではない。種が芽を出して茎になり、葉を出し、花を開く。内在的なものを出すことで発展をする。木が机に発展したとは言わない。外から圧力を加えて変形したということを発展とは言わない。地域において、独自の生活様式でそれを支える産業循環をどうやって発展させたらいいのかを考える際、地域の産業循環に関連する企業を誘致すべきであり、全くの無関係な企業を誘致しても発展しない。 ・人間には所有欲求と存在(=being)欲求がある。所有欲求とは人間の外側にあるものを所有することによって満たされる欲求。一方、存在欲求は人間と人間が触れあうこと。触れあって調和していくことによって満たされる欲求。存在欲求が満たされると人間は幸福を実感する。所有欲求が満たされると人間は豊かさを実感する。今後、このbeingの欲求をwell-beingにして良き存在にしようとするのがポイントとなる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの工業社会は、欠乏や貧困をなくすため、存在欲求を犠牲にして、所有欲求を追求した。しかし、これ以上所有欲求を充足すると自然資源が枯渇化すること、人々の欲求自体も所有欲求が満たされることにより、存在欲求の方にシフトする。今後のポスト工業社会では存在欲求を満たしていく。そういう方向に舵を切らなければいけない。 ・人間の生活は、地域社会の「自然環境」にあわせて人間の絆としての「社会環境」を形成して営まれている。社会目標を転換してそして二つの環境をまた作り直す。人間と自然とが共にする快適な自然環境とそれから人間と人間とが「生」を「共」にする「幸福」な社会環境を作り直す。これが well-being。 ・「緑が生み出す木陰」「人間の絆がおりなす木陰」この二つの絆の下で子どもは育つ。信濃通俗大学なども長野県はまだ根が残っており、これを内在的に膨らませていけばよいのではないか。 <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・well-being の概念について、しっかり整理してこれから取り組みを進めていく必要がある。 ・総合計画を作るにあたり、目標設定のあり方も含めて変革していかなければいけない。
協議の結果	引き続き検討